

防災まちづくり 事例集

わたしたちのまちの防災活動



川崎市

令和6（2024）年3月

目次

はじめに	1
■防災まちづくりとは	1
■川崎市の防災まちづくり支援	1
■防災まちづくり支援の流れ	2
■事例集作成の目的	2
■事例集の使い方	3
■事例インデックス	3
1 地域や一人ひとりが備える	4
事例1 防災意識啓発ニュースレター	5
事例2 防災倉庫棚卸	6
事例3 防災グッズの共同購入	7
2 地域の課題や資源を確認する	8
事例4 防災アンケート	9
事例5 防災まち歩き	10
事例6 防災カルテづくり	11
事例7 令和元年台風 19 号振り返り会議	12
事例8 マイ避難ルート・マイタイムライン	13
3 ご近所どうしで助け合える関係性づくり	14
事例9 安否確認訓練	15
事例 10 要援護者支援の体制づくり	16
事例 11 ブロック別防災訓練	17
事例 12 消火ホースキット設置訓練	18
4 地域の中で連携する	19
事例 13 防災×交流イベント	20
事例 14 防災ポリ袋クッキング	21
事例 15 電話連絡網訓練	22
事例 16 民間との防災協定締結	23
5 参考	24
5-1 実施に向けた時間と人材の関係性	25
5-2 よくある質問 Q&A	26
5-3 取組参考資料	27
5-4 町会別取組一覧(R5 年度末時点)	43

はじめに

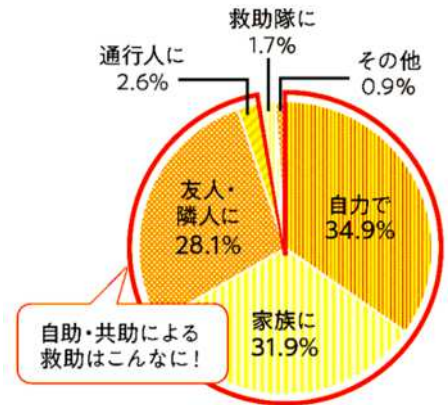
■防災まちづくりとは

平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、生き埋めや閉じ込められた際の救助は、9割以上が自助・共助によるものでした。

災害が起きた際は、『自助・共助・公助』が求められますが、大規模災害が発生した際は、行政による対応には限界があり、特に発災直後においては、同時多発的に被害が発生していることから、『自助・共助』が重要になります。

また、災害に強いまちづくりを実現するためには、建物、道路などの空間を改善する(ハードの取組)ほか、防災教育や災害時の情報伝達などの被害を軽減する仕組みや体制をつくっておくこと(ソフトの取組)が重要です。

そのために、まず「自分自身の身の安全を守る「自助」と地域住民が互いに協力して助け合う「共助」により、災害に強いまちの実現をめざすこと」=『防災まちづくり』が必要です。



生き埋めや閉じ込められた際の救助

出典：一般社団法人日本火災学会
「兵庫県南部地震における
火災に関する調査報告書」



■川崎市の防災まちづくり支援

平成21(2009)年度川崎市地震被害想定調査において、死亡原因の95%は建物倒壊と火災が占めており、中でも火災については、危険性の高い地区が偏在していることが分かりました。

そこで火災延焼被害や建物倒壊、避難などの課題が特に大きい2地区については『不燃化重点対策地区』に指定し、条例による建物の防火規制強化や防災空地の創出などにより、まちの不燃化を推進しています。

また、火災延焼被害などの課題が大きい16地区については『防災まちづくり推進地区』として、地域の方々による防災まちづくりの取組を町会などの単位で支援しています。防災まちづくり支援については、防災の視点から地域の方々为主体となってまちづくりを行うことができるよう、様々な防災に関する取組を提案・実施しています。



■防災まちづくり支援の流れ

防災まちづくりの支援は、1つの町内会につき3年間行っています。

まず1年目は、地域における災害の危険性や防災上の課題などについて、ニュースチラシなどでの啓発、防災アンケートや防災まち歩き、防災カルテづくりなどを通して、住民の方の意見や認識を整理し、地域へ広く情報発信するところから始めます。

2年目は、1年目の取組によって分かってきた地域の課題や関心ごとを基に、地域の実情に応じた様々な取組を、できることから少しずつ、オーダーメイドで実施します。

3年目は、2年目の効果や反省点などを踏まえて、改善しながら引き続き取組を実施しつつ、町内会独自の防災訓練の実施など、災害時に効果的に機能する防災活動体制を構築していきます。また、3年間の取組結果を踏まえ、支援終了後も町内会主体で防災活動を続けていくための指針として、地域独自の「防災まちづくり計画」を作成します。

少し難しいように捉えがちですが、あくまでも無理なくできる範囲でということの基本として支援を行っています。



■事例集作成の目的

防災まちづくり支援については、防災まちづくり推進地区で行っていますが、防災まちづくりの取組はどの地区にも必要な取組です。防災まちづくり事例集については、防災まちづくり推進地区で実施した取組を他の地域にも周知し、新たな防災活動の取組方法や、課題解決に向けたヒントとして、地域防災力の向上に役立てていただくことを目的に作成しました。なお、この冊子に掲載した事例は一例で、市内にはほかにも多くのすぐれた取組があるかと思えます。先進的な取組については担当部署へご紹介ください。

■事例集の使い方

この事例集は4つのテーマ別に構成しています。

活用にあたっては、関心のあるテーマや解決したいテーマなど、必要に応じて、参考になるところから読んでみてください。

◇ 地域特性に合った取組を実施

事例の中から、自分たちの地域に合ったもの、課題となっているものを選んで実施してみましょう。

◇ できることから少しずつ始める

最初から大きな取組を実施することは難しいので、まずはできそうなことや、やってみたいことから少しずつ始めてみましょう。

マニュアルや計画を作ることも必要ですが、まずは実施してみることが大切です。

◇ 実施に向けた相談など

本事例集を見て、実施してみようと思っただけいたら幸いです。その際に不明な点などがあれば、担当部署までお問い合わせください。また、これまで支援を実施した町内会の一覧を41ページに掲載していますので参考にしてください。

■事例インデックス

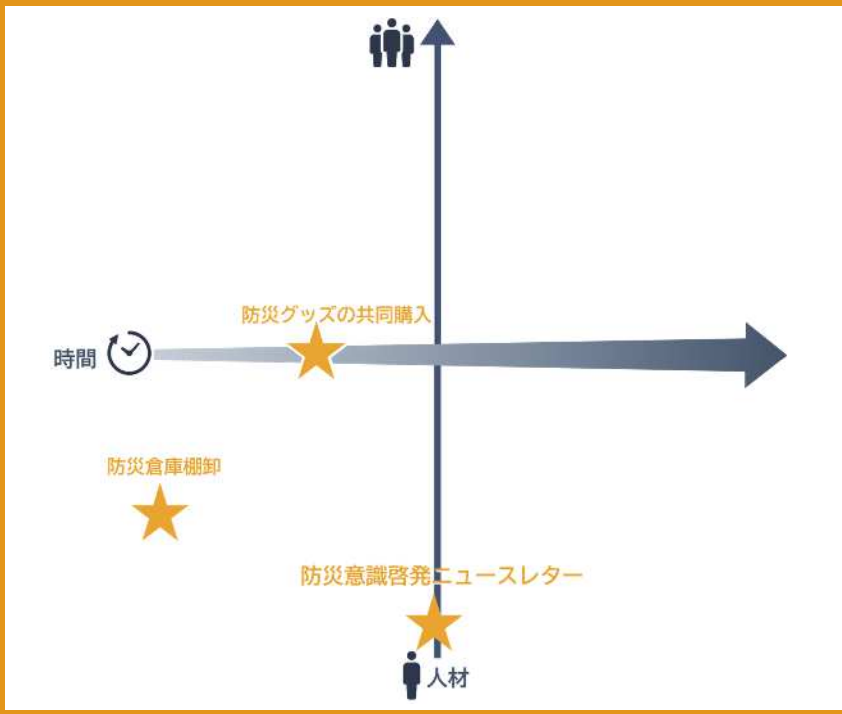
	活動事例	ページ
1 地域や一人ひとりが備える	事例1 防災意識啓発ニュースレター	5
	事例2 防災倉庫棚卸	6
	事例3 防災グッズの共同購入	7
2 地域の課題や資源を確認する	事例4 防災アンケート	9
	事例5 防災まち歩き	10
	事例6 防災カルテづくり	11
	事例7 令和元年台風19号振り返り会議	12
	事例8 マイ避難ルート・マイタイムライン	13
3 ご近所どうして 助け合える関係性づくり	事例9 安否確認訓練	15
	事例10 要援護者支援の体制づくり	16
	事例11 ブロック別防災訓練	17
	事例12 消火ホースキット設置訓練	18
4 地域の中で連携する	事例13 防災×交流イベント	20
	事例14 防災ポリ袋クッキング	21
	事例15 電話連絡網訓練	22
	事例16 民間との防災協定締結	23



1 地域や一人ひとりが備える

地域にお住まいの方一人ひとりが防災意識を高め、備蓄などしっかり対策していくことにより、災害に強いまちづくりにつながっていきます。小規模でも定期的に行うことで、少しずつ防災の輪が広がります。

- 事例1 防災意識啓発ニュースレター
- 事例2 防災倉庫棚卸
- 事例3 防災グッズの共同購入



事例1 防災意識啓発ニュースレター

取組内容と実施方法

概要

防災まちづくり支援開始のお知らせや災害事例、ハザードマップなどを掲載し、地域の方に広く防災意識啓発を行い、活動・取組の参加を促す。

実施時期など

時期: てはじめに!

取組難易度: ★☆☆

対象者: 町会役員、地域の町会加入者

主な必要資料

地域のハザードマップ



実施後における取組事例

- ・防災アンケート(p9)
- ・防災まち歩き(p10)
- ・防災カルテづくり(p11)
- ・マイ避難ルート・マイタイムライン(p13)

川崎市防災ポータルサイト
<https://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/hazardmap/hazardmap.html>

実施のポイント

1 関心のある災害をヒアリングする

地域の方に災害についての危機感や防災意識を持っていただくため、地域特性を踏まえるだけでなく、地域や町会が気になる災害についてヒアリングをしましょう。

2 顔の見える町会・活動紹介

普段町会活動に馴染みのない方は、どんな方がどのような活動をされているのか分からないと、なかなか参加意欲が高まりません。町会役員の紹介や今後のイベント情報なども掲載しましょう。

3 イベント実施前後の周知

防災に関する啓発だけでなく、様々なイベントなどを定期的に発信することで、町会活動に関心を持ってもらいます。内容に応じて、回覧や全戸配布などを検討しましょう。顔の見える関係づくりが、防災にもつながるので、様々な町会活動を周知しましょう!



事例2 防災倉庫棚卸

取組内容と実施方法

概要

備蓄状況から備えるべき物を検討するため、防災倉庫内の資器材の数量、状態などを確認し、リストの作成・更新を行う。

実施時期など

時期:春・秋(気候が穏やかな時期がおすすめ)

取組難易度:★☆☆

対象者:町会役員など



主な必要資料(p27 参考)

倉庫点検リスト/川崎市自主防災組織防災資機材購入補助金交付金要綱

実施後における取組事例

- ・ 町会として備えておくものを購入
- ・ 防災グッズ共同購入(p7)
- ・ 防災訓練の実施(防災資器材を活用)

実施のポイント

1 事前に参加人数・規模を調整する

運び出し以外に、記録、状態確認など人数が必要になります。お声がけする人数を調整しましょう。

2 確認だけでなく、試運転も

発電機など被災時に必須になる資器材は、その場で試運転しましょう。参加者が集まる機会に、一緒に動作確認を行い、扱える方を増やしましょう。

3 今後町会として何を備えたら良いか考える

町会としての備蓄には限界があり、地域全体分の食料や飲料水などを備えておくのは不可能です。棚卸の結果、地域の特性、被災地で役に立った資器材を参考に、今後何を備えたら良いかの意見交換をしましょう。

4 補助金も活用しましょう

川崎市では防災資機材購入における補助金交付制度があります。購入する防災資機材が決定したら、「川崎市自主防災組織防災資機材購入補助金交付金要綱」を確認し、申請を行いましょう。

【参考ページ URL:<https://www.city.kawasaki.jp/601/page/0000017716.html>】



事例3 防災グッズの共同購入

取組内容と実施方法

概要

地域の方に広く参加いただき、一人ひとりの備蓄を促すため、町会や災害時の活動拠点で、消火器や排せつ物凝固剤などの防災グッズの共同購入を行う。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★☆☆

対象者:地域の町会加入者



主な必要資料(p28~参考)

防災用品販売業者リスト/取組周知チラシ/共同購入応募チラシ など

実施後における取組事例

- ・既存のイベントなどと合わせて町会で継続して実施できるような体制づくり

実施のポイント

1 防災グッズの決定

- ・地域の課題となる災害や、実施していれば、防災アンケート(p9)の結果を参考に防災グッズを決定しましょう。過去に実施した町会では不要になった消火器の回収が特に反響がありました。

2 業者の条件整理と決定

- ・商品の搬入方法や手数料、代金の受け取りなど、業者に求める条件を整理しましょう。
- ・50個や100個など大体の個数を基に、単価を業者と調整しましょう。

3 購入募集を通して個数を把握する

- ・どの程度の方が購入されるのか募集して、個数を把握しましょう。30ページにテンプレートを掲載していますので、実施する際は参考にしてみてください。
- ・募集の回答率を上げるためには、Google フォームなどを使って Web を活用することが効果的です。QRは簡単に作成できますので、募集用紙に入れるようにしましょう。

4 地域の方との交流が第一

- ・この取組は普段町会活動に馴染みのない方でも参加しやすいです。参加された幅広い年代の方に、町会の取組を知っていただくことや、地域の活動拠点に馴染みを持っていただけるよう、積極的にコミュニケーションを取りながら進めることが大切です。



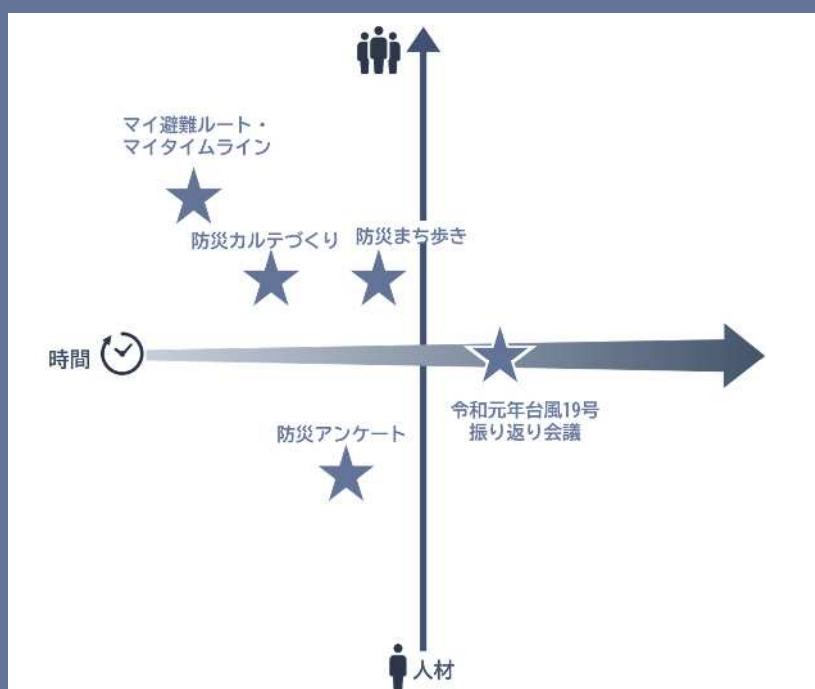
令和6年元旦に発生した能登半島地震の影響で、被災地の避難所のトイレでは衛生環境などから体調を崩される方も多かったようです。自宅避難した際も役立つ凝固剤や生活用水など普段から備えておくことが大切です。



2 地域の 課題や資源を 確認する

災害に強く、地域のつながりも強いまちにするために、まずは自分の地域の課題や資源を確認することが大切です。確認した特徴を基に、自分の地域にはどんな活動が必要なのか検討・発見につながります。地域を防災の視点で見てください。

- 事例4 防災アンケート
- 事例5 防災まち歩き
- 事例6 防災カルテづくり
- 事例7 令和元年台風19号振り返り会議
- 事例8 マイ避難ルート・マイタイムライン



事例4 防災アンケート

取組内容と実施方法

概要

地域の課題や傾向を知るために、防災意識に関するアンケートを実施

実施時期など

時期:年度初めころ

取組難易度:★☆☆

対象者:地域の町会加入者

主な必要資料(p32 参考)

地域に応じたアンケート質問項目

実施後における取組事例

- ・防災グッズの共同購入(p7)
- ・防災まち歩き(p10)
- ・防災カルテづくり(p11)



実施のポイント

1 地域に合った質問を考える

- ・町会としてどのような活動が効果的かを考えた上で、質問項目を考えましょう。地域によって状況は違いますが、32ページにテンプレートを掲載していますので、実施する際は参考にしてみてください。
- ・防災に関する項目だけでなく、地域の方が何に関心を持っているのか把握できる項目も考えましょう。

2 紙だけじゃなくてWEBも活用しましょう！

- ・回答率を上げるためには、Google フォームなどを使ってWebを活用することが効果的です。QRは簡単に作成できますので、アンケート用紙に入れるようにしましょう。

3 配布・回収方法

- ・役員だけでは回収が難しいので、地域の方々の協力を得ましょう。普段、回覧などを行っている場合は、それに合わせて配布・回収をすると効率的です。

4 結果は必ず周知

- ・アンケート結果は必ず取りまとめて、結果を周知しましょう。
- ・結果を踏まえて、地域に応じた活動やイベントなどを検討しましょう。

事例5 防災まち歩き

取組内容と実施方法

概要

普段歩いている地域を防災の視点から改めてまち歩きを行い、地域の防災上の課題や資源を発見する。

実施時期など

時期:春・秋(気候が穏やかな時期がおすすめ)

取組難易度:★☆☆

対象者:町会役員、地域の町会加入者 など



主な必要資料

地域の見るべきポイント/まち歩きルートマップ など

川崎市防災ポータルサイト
<https://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/hazardmap/hazardmap.html>



実施後における取組事例

- ・ ニュースチラシなどにまとめ、地域の方に自宅周辺の資源を再認識できるよう意識啓発を行う。
- ・ 地域だけの防災まち歩きマップを作成し、地域へ配布、会館の掲示を行う。
- ・ ブロック別防災訓練(p17)
- ・ 防災カルテづくり(p11)

実施のポイント

1 地域の気になるポイントを事前に調査

- ・ まち歩きのルートを考える際に、地震によって通り抜けが心配になる狭い道や、行き止まりや避難場所など地域の気になるポイントを町会内で調査しましょう。
- ・ 調査を基に、『地域の見るべきポイント』を整理すると、地域の課題や資源が発見しやすいです。



2 気づいたことを意見交換で共有

まち歩きで気づいたことを意見交換しましょう。整理した課題を直接歩いてどう思ったか、今後どんなことをすれば地域がもっと良くなるかといった発見や意見、初めてこんな資源があることを知ったなど実際に歩いた感想を共有すると、より地域の発見が深まります。

3 発見したことを地図にまとめる

意見交換した内容を地図に書き起こしましょう。可視化してみると改めてお住まいの地域の特徴が見えやすくなる上、地域の方にも発見を広く共有することができます。

事例6 防災カルテづくり

取組内容と実施方法

概要

備蓄や避難など防災に関することや、町会内の組織体制や地域の気になっていることなどテーマを幅広く設けて意見交換を行い、課題や資源を整理する。

実施時期など

時期: 来年度の活動を決める前がおすすめ

取組難易度: ★★★

対象者: 町会役員、地域の町会加入者、学校関係者など



主な必要資料(p33 参考)

ハザードマップ / 意見交換用シート

川崎市防災ポータルサイト

<https://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/hazardmap/hazardmap.html>



実施後における取組事例

- ・ 防災アンケート(p9)
- ・ 防災まち歩き(p10)
- ・ マイ避難ルート・マイタイムライン(p13)

実施のポイント

1 テーマや周知は幅広く

- ・防災だけでなく、地域の団体やイベント状況、今後あったら良いと思うものなど、話すテーマは幅広く設けましょう。
- ・マンションにお住まいの町会加入者、現役世代、学校の先生など、周知やお声がけを役員に限定せずに行うと、地域を様々な視点から意見をいただきやすくなります。



2 当日は全員で意見交換を

- ・一部の方に意見が偏らないよう、参加された全員からお話を聞けるよう1テーマに対し1人ずつ意見をいただくようにしましょう。
- ・テーマに対しての回答の方向性や内容を予め考えておくと当日進行がしやすくなります。

3 結果を区役所と共有

- ・意見交換で出た内容を区役所と共有しましょう。課題や資源などを共有することによって、区内の他町会の様子や事例などから課題解決や地域の今後の方向性などを検討につながります。

事例7 令和元年台風19号振り返り会議

取組内容と実施方法

概要

地域に必要な災害対策を検討するため、令和元年台風19号発生時の自分の行動、町会としての行動を振り返り、記録を作成します。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★★☆

対象者:町会役員、地域の町会加入者 など



主な必要資料

当時の行動タイムライン 避難所配置図 など

実施後における取組事例

- ・ ニュースチラシなどにまとめ、地域の方に当時の様子を伝え自助・共助の意識啓発を行う。
- ・ 防災グッズの共同購入(p7)
- ・ 町会の緊急時の連絡体制の見直し
- ・ 電話連絡網訓練(p22)

実施のポイント

1 事前に会長へヒアリング

- ・ 当時の町会の動きを把握している会長に、事前にヒアリングし、行動や時系列を整理して、タイムラインを作成しましょう。タイムラインを基に、参加者は当時の行動を思い出していただきます。

2 当時の具体的なエピソードを共有

- ・ 同じ地域でもお住まいの条件によって、被害状況や行動は様々です。記録作成にあたり町会活動の共有だけでなく、地域全体の状況が振り返れるよう、避難所運営に参加した方や実際に被害に合われた方など当時の具体的なエピソードが共有できるようお声がけしましょう。



3 『災害時は地域で助け合う』を伝えていく

避難所運営や災害時の食料などは、町会だけで行うのではなく、地域の一人ひとりが備え、全体で助け合う必要があります。作成した記録を周知し、当時の活動や町会として地域に何をお願いしたいのかを伝えていくことが、地域の助け合いの一步につながります。

事例8 マイ避難ルート・マイタイムライン

取組内容と実施方法

概要

災害リスクを記載したマップを基に、自宅の災害リスクの確認や、災害状況別の避難先や一人ひとりに合った避難ルートを考える。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★★☆

対象者:町会役員、地域の町会加入者 など



主な必要資料(p34 参考)

ハザードマップ / マイ避難ルート・マイタイムラインシート など

実施後における取組事例

- ・ 防災グッズの共同購入(p7)
- ・ 防災まち歩き(p10)
- ・ 要援護者支援の体制づくり(p16)
- ・ 電話連絡網訓練(p22)
- ・ 民間との防災協定締結(p23)

マイタイムラインとは

台風など大雨の際、「いつ」「何をするのか」事前に自分だけの避難行動計画を時系列ごとに整理するものです。

参考: [マイ・タイムライン \(mlit.go.jp\)](http://mlit.go.jp)

『川崎 ハザードマップ』で検索!



実施のポイント

1 作例を作成しておく

- ・ 会館や災害時の拠点になりそうな場所をモデルとして、マイタイムラインの作例を事前に作ります。内水氾濫や洪水など、災害状況によってルートは大きく異なるので、各災害の発生条件などを確認しましょう。

2 参加者どうして避難ルートを共有する

- ・ 自分が作成した避難ルートを他の方と共有することによって、水害時に冠水して通り抜けが不安な道など、ハザードマップには記載のない、その場所に住む方しか知らないような情報を交換し、より安全なルート選びができます。

3 作成したマイ避難ルートを地域にも広げていく

- ・ 作成した避難ルートの周知や、体験会などを通して、特にすぐの避難が難しい方など広く地域の方に避難に関する意識啓発を行きましょう。

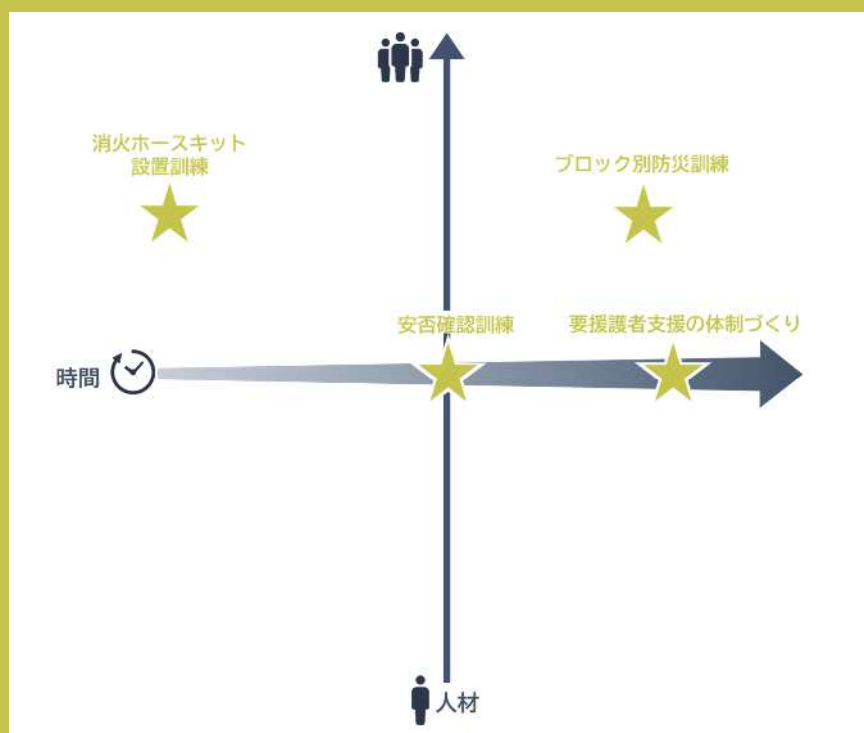




3 ご近所どうして 助け合える 関係性づくり

大災害が発生すると、被害が同時多発するため、公助だけでなく、『自助・共助』が特に重要になります。いざというときに助け合えるよう、近隣の方たちで少しずつ普段から顔の見える関係づくりをしていきましょう。

- 事例9 安否確認訓練
- 事例10 要援護者支援の体制づくり
- 事例11 ブロック別防災訓練
- 事例12 消火ホースキット設置訓練



事例9 安否確認訓練

取組内容と実施方法

概要

黄色いタオルなどの目印を掲げて、災害時に自分の安否を周囲に知らせる取組。普段町会活動に馴染みのない方も参加しやすく、訓練による訪問をきっかけに地域コミュニティの活性化につながる。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★★☆

対象者:町会役員、地域の町会加入者 など

主な必要資料

目印(黄色いタオルなど)/訓練周知チラシ/投函確認チラシ/
提出チェックシート(町会名簿や町会費一覧など)



実施後における取組事例

- ・要援護者支援の体制づくり(p16)/地域の顔の見える関係性づくりから発展しやすい
- ・防災訓練など既存の防災活動と合同実施

実施のポイント

1 対象範囲は無理をせず

初回は50世帯程度を対象に行います。参加にお声がけしやすい班の方からで構いません。購入する目印は世帯数や予算の条件に応じて、町会全体で一括購入、対象班のみ購入、町会加入・非加入など対象の数量を考えましょう。

2 事前と直前、2回程周知

事前周知として、目印の配布と合わせて訓練実施をお知らせしましょう。また、対象班のみで構いませんので必ず訓練の直前(1週間程度前)にもう一度訓練の周知を行きましょう。

3 当日は班長さんを中心に進めましょう

いざという時、会長や町会役員の方が居なくても、ご近所どうし安否確認し合えるよう、訓練当日も班長さん主体で進めましょう。訪問を通じて、見守り合う関係性を作っていきます。



事例 10 要援護者支援の体制づくり

取組内容と実施方法

概要

要援護者支援制度に登録されている方に対し、民生委員と協力しながら、訪問や意見交換を通して町会にできることを考え、支援体制づくりを行う。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★★☆

対象者:町会役員、地域の町会加入者、民生委員 など



主な必要資料(p36 参考)

支援ノート/話すことの例/取組周知チラシ/訪問事前チラシ/完了チラシ など

実施後における取組事例

- ・安否確認訓練(p15)
- ・防災訓練など既存の防災活動と合同実施

実施のポイント

1 まずは訪問を試みる

- ・個人情報や会館から持ち出さないなど町会内でルールを作り、民生委員と協力しながら担当を割り振り、訪問チラシを配布します。
- ・名簿から各担当へ訪問日程を調整しましょう。

2 町会としてできることを伝える

- ・発災時は対象者、支援側、町会に関係なく同じ被災者という立場になります。自分や家族の安全を優先した上で、対象者に対し、できる範囲での支援になることを伝えましょう。
- ・避難する際に電話をして欲しい、地域のイベント情報を教えて欲しいなど、対象者の方によって支援して欲しいことは様々です。町会のできる範囲で何をして欲しいのか具体的に聞いてみましょう。実際の訪問で36ページの支援ノートなどを参考にしてみてください。

3 訪問結果を共有する

- ・担当ごとに訪問結果を共有し、対象の方の状況や町会に支援して欲しいことの整理を行います。区役所やケアマネジャーとも共有し、無理のない範囲で、継続的に地域で見守りができるような体制づくりを行います。



事例 11 ブロック別防災訓練

取組内容と実施方法

概要

地域のブロックごとに活動拠点を設定し、周辺に住む方に拠点が定着し、交流のきっかけになるよう訓練を行う。町内会のエリアが広い場合などは、ブロック毎の課題を踏まえて、個別に訓練を実施する。

実施時期など

時期：春・秋（気候が穏やかな時期がおすすめ）

取組難易度：★★★

対象者：該当ブロックにお住まいの方 など



主な必要資料

まち歩きルートマップ/地域の見べきポイント など

実施後における取組事例

- ・ 拠点を中心に消火ホースキットや防災倉庫設置などの検討
- ・ 防災資器材を使ったブロックごとの定期的な防災訓練
- ・ マイ避難ルート・マイタイムライン(p13)

実施のポイント

1 実施ブロックと活動拠点を決める

- ・ 防災上危険な箇所や気になる箇所、住まわれている方の傾向などを基に実施ブロックを決めましょう。初回は1ブロックのみでの実施し、輪番で続けていくことがおすすめです。
- ・ 地域のブロックごとに、公園や緑地を中心に周辺の方が活動できる拠点を設定しましょう。

2 楽しく参加できるメニュー

- ・ 周辺にお住まいの様々な年代の方に幅広く参加いただけるよう、地域の方どうしが協力しながら楽しく参加できるメニューで実施しましょう。まち歩き、ポリ袋調理、焚き火などレクリエーション要素を入れると人も集まりやすいです。



3 継続的な活動

- ・ 準備にあまり手間のかからない防災まち歩き(p10)などを中心に、継続的に訓練を実施しましょう。
- ・ 周辺にお住まいの方に、定期的な訓練を通してブロックごとに設定した活動拠点到に馴染みを持っていただき、災害時の活動拠点として意識をもってもらうことが大切です。

事例 12 消火ホースキット設置訓練

取組内容と実施方法

概要

消火ホースキットを使って、設置体験、手順の確認、火災時の意識啓発などを行い、ご近所どうしでの初期消火の成功につなげる。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★★☆

対象者:町会役員、地域の町会加入者 など

主な必要資料

消防団への協力依頼書、取組周知チラシ など



実施後における取組事例

- ・ ニュースチラシなどにまとめ、消火ホースキットの位置や使い方の周知・啓発
- ・ 定期的な小規模防災訓練の実施

実施のポイント

1 消火ホースキット設置場所周辺にお住まいの方にお声がけする

- ・ 火災時に役員の方が設置場所まで駆けつけて消火活動を行うのは難しいです。訓練を通して町会内にホースキットを使用できる方を増やしていくことが大切です。
- ・ 特に消火ホースキット設置場所の近隣にお住まいの方にも訓練参加を呼びかけ、使用方法を体験していただくことによって、燃え広がりなどの被害を防ぐことにつながります。
- ・ 普段町会活動に馴染みのない方も訓練を通じて活動参加や近隣の方どうしのコミュニケーションのきっかけづくりにもなり、顔の見える関係性のきっかけになります。



2 定期的な訓練が必要

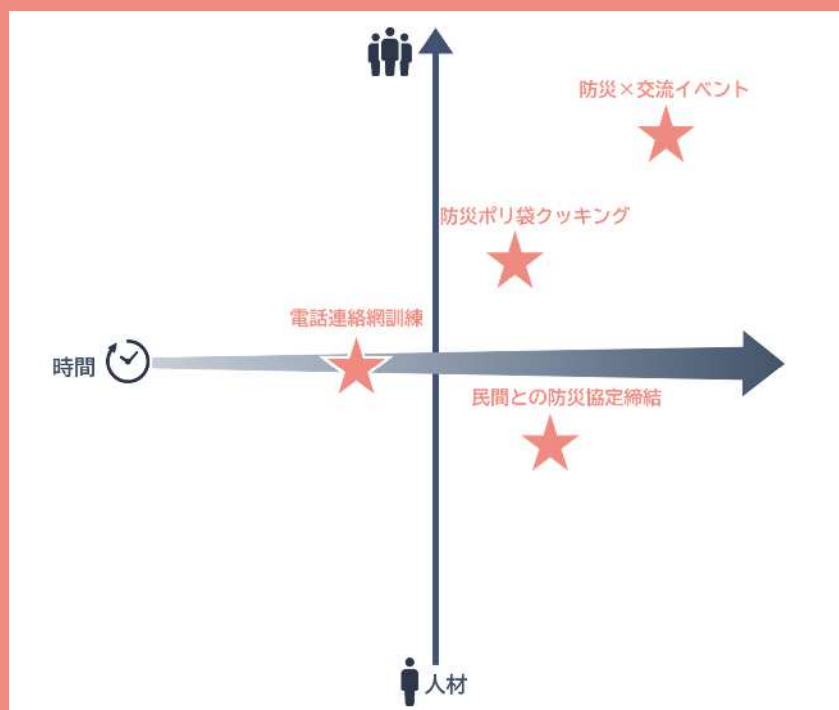
- ・ 半年に1度程度、定期的に訓練を行うようにしましょう。繰り返し行うことにより少しずつ定着し、災害時での活用にもつながります。
- ・ 特に空気が乾燥する秋や冬ごろは、火災が起こりやすい季節です。普段の生活で起こりうる火事のきっかけなど防災の意識啓発と合わせて、訓練を実施するとより効果的でしょう。



4 地域の中で連携する

まちの中の団体や施設など、普段の活動の中で連携することによって、多くの方を巻き込み、より効果的になるだけでなく、災害時も助け合える関係につながります。

- 事例13 防災×交流イベント
- 事例14 防災ポリ袋クッキング
- 事例15 電話連絡網訓練
- 事例16 民間との防災協定締結



事例 13 防災×交流イベント

取組内容と実施方法

概要

幅広い年齢の方に参加いただけるよう、定期的な防災訓練の内容に、子どもも大人も楽しみながら参加できるようなブースを追加して実施する。

実施時期など

時期:年度末(企画に時間がかかるため)

取組難易度:★★★

対象者:町会役員 地域の町会加入者 学校関係者 など



主な必要資料(p41 参考)

周知用チラシ/防災スタンプラリーシート/防災ランタン作り方 など

実施後における取組事例

- ・防災グッズの共同購入(p7)
- ・防災まち歩き(p10)
- ・要援護者支援の体制づくり(p16)
- ・消火ホースキット設置訓練(p18)
- ・防災訓練など既存の防災活動と合同実施



実施のポイント

1 既存の防災訓練に少しプラスする

- ・幅広い年代の方にご参加いただけるよう、定期的に行っている防災訓練のメニューに子どもも大人も楽しめるメニューを追加して実施しましょう。
- ・紙食器づくりやゴミ袋ポンチョ、カラフル防災ランタンなどの工作、避難所までのスタンプラリーなど実際に手を動かしながら学べる物だと、より多くの方に楽しんでいただきやすいです。



2 地域の団体と連携しながら進める

- ・地域の子ども会や青年部、老人会、商店街、近隣の学校とも連携しながら進めていきましょう。特にイベント開催の周知などは、子ども会や青年部と連携しながら、近隣の学校への周知に力を入れると効果的です。

事例 14 防災ポリ袋クッキング

取組内容と実施方法

概要

ポリ袋調理方法を使ったクッキングイベントを開催し、幅広い年代の方に共通する『食』という切り口で、町会活動に参加するきっかけを作る。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★★☆

対象者:誰でも



主な必要資料

イベント周知チラシ/ポリ袋調理について概要/当日メニュー/町会活動 PR チラシ
※事務局資料として、タイムスケジュール・必要備品一覧などは整理しましょう。

実施後における取組事例

- ・ 対象やテーマを変更して(町会役員、親子、現役世代、女性、男性など)再度実施
- ・ ポリ袋調理方法に限定せず、幅広い年代が参加しやすいイベントを考えてみる

実施のポイント

1 参加募集の方法や声掛けを幅広く行う

- ・ 回覧板や掲示板だけでなく、青年部やこども会とも協力し、なるべく広く周知しましょう。学校の長期休みに合わせて開催すると参加者も集まりやすいです。
- ・ Google フォームなどを使って Web 申し込みができるとなお良いでしょう。

2 料理が好き・得意な方を中心に進める

- ・ 一部に負担が偏らないよう、料理が好きの方、得意な方を中心に協力を依頼しましょう。役員のみ限定せずにお声がけすると、地域の人材発掘にもつながります。
- ・ 協力のお声がけに合わせて、担当者も決めて進めましょう。

3 参加いただいた方に実施予定の楽しいイベントや他の活動も紹介する

- ・ 直近の町会イベントや普段の町会活動も合わせて紹介しましょう。幅広い年齢の方が参加し、直接周知ができる絶好の機会です。
- ・ 内容を限定せず、町会が興味のあることや運営しやすい内容で定期的にイベントを開催し、地域に対し参加のきっかけづくりを継続的に行っていくことが大切です。



事例 15 電話連絡網訓練

取組内容と実施方法

概要

災害時など、いざという時に情報が共有できるよう、町会の連絡体制の見直しや連絡網を使った訓練を実施する。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★☆☆

対象者:町会役員 など



主な必要資料

連絡網/伝達内容 など

実施後における取組事例

- ・防災訓練内での参集訓練
- ・安否確認訓練(p15)

実施のポイント

1 連絡ツールを幅広く

- ・現状の連絡網の有無を確認し、更新を行います。防災部のコアメンバーだけでなく、青年部など地域の団体と広く結び付けられるよう、紙だけでなく、LINEやSMSなどのツールを使った連絡体制を検討しましょう。

2 災害時の役割を決めて作成

- ・避難所の鍵、避難所運営メンバー、地域の情報収集担当など災害時の役割を整理しましょう。担当者だけに負担が集中すると、災害時に連絡網や町会が機能しづらくなるので注意が必要です。
- ・完璧な体制の見直しを目指すのではなく、まずは一度実際に連絡網を活用してみることが大切です。

3 他のイベントと合わせて実施

- ・防災訓練や安否確認訓練など、定期的に行っているイベントと合わせて作成した連絡網を活用しましょう。継続的な活用によって、より定着しやすくなります。



事例 16 民間との防災協定締結

取組内容と実施方法

概要

福祉施設など地域の団体と災害時にお互いが助け合えるよう防災協定の締結を行う。

実施時期など

時期:いつでも

取組難易度:★★★

対象者:町会役員 など



主な必要資料

協定書

実施後における取組事例

- ・防災協定を締結した福祉施設と定期的に防災訓練を実施
- ・町会活動の周知など
- ・電話連絡網訓練(p22)

実施のポイント

1 協定先を検討する

- ・川崎市で公表されている防災協力事業所リストなどを参考に、協定先の検討を行きましょう。

【参考ページURL：[川崎市：川崎市防災協力事業所登録制度について \(city.kawasaki.jp\)](http://city.kawasaki.jp)】

2 災害についての懸念点や協力できることを共有する

- ・災害についてお互いの懸念点や助け合えることを共有しましょう。決定した内容を協定書に反映し、防災協定締結を行います。



3 災害時だけでなく、普段から顔の見える関係性づくり

- ・災害時に助け合えるよう、普段から顔の見える関係性をつくるのが大切です。町会で定期的に実施する防災訓練などを協定先の施設にも周知し、参加いただくなど継続的な関係性づくりを行きましょう。

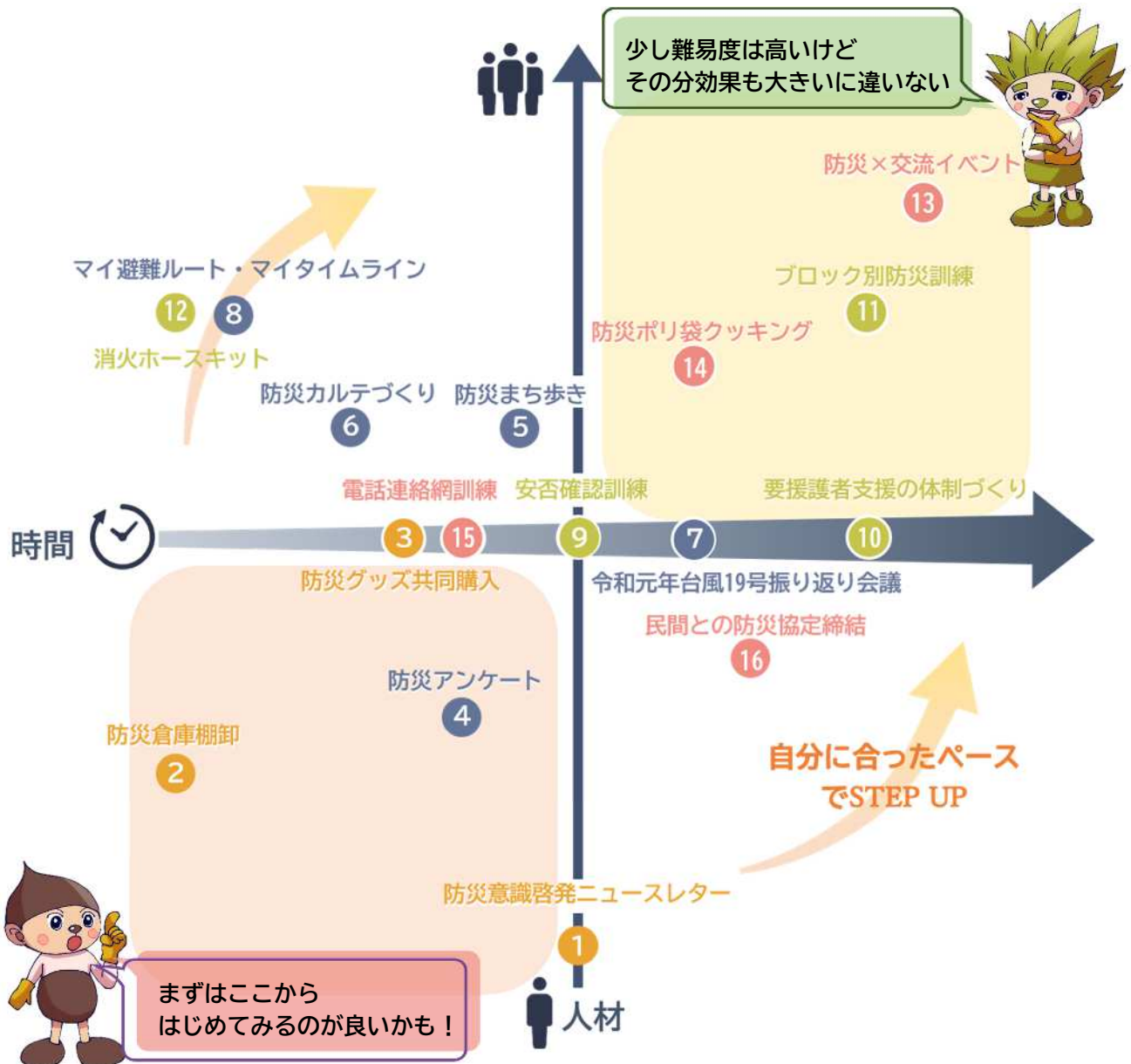


5 参考

地域の状況、町会の現状に合った取組を、できる範囲から進めていくことが大切です。まず何から始めていくのか、この章を参考に地域で必要なことを考えていきましょう。

- 1 実施に向けた時間と人材の関係性
- 2 よくある質問 Q&A
- 3 取組参考資料
- 4 町会別取組一覧(R5 年度末時点)

5-1 実施に向けた時間と人材の関係性



いがぼう

さいがいに対する備えはせず、基本的にぼうっとしているが、好物の甘栗だけはローリングストックしている。モチーフは「いが栗」。



くり防

災害が起こる前の備えが大事だと感じ、防まちづくりに向けた取組を自分なりに行っている。モチーフは「栗」。



5-2 よくある質問 Q&A

防災まちづくりの取組を進めるにあたり、町会の皆さんから寄せられた活動に関する質問や不安なことを例としてご紹介します。自分の地域に当てはまる項目があれば、ぜひ参考にしてください。

Q 防災活動に力を入れたいけど何から始めれば良いか分からない…

A まずは地域や町会の現状確認から始めてみるのはいかがでしょうか。

- 町会の備蓄状況を確認する『防災倉庫棚卸』(p6)を実施し、今後何を購入する必要があるのか、地域で話し合ってみる。
- 活動の一環である防犯パトロールと合わせて、『防災まち歩き』(p10)を実施する。

Q 防災訓練の参加者をもっと増やしたい…

A 例年の内容に少しプラスして、新しいメニューを行うのはいかがでしょうか。

- 『防災×交流イベント』(p20)では地域の防災資源を見て回るスタンプラリーや災害用ランタンづくりなど子どもも楽しめるメニューを追加して実施しました。
- その他に、『防災グッズの共同購入』(p7)もおすすめです。

Q 台風が来たときの自分の避難行動に自信がない…

A 災害なのでどんな避難行動でも一概に正解とは言い切れませんが、まずはご自宅や地域の災害リスクを確認する必要があります。

- 『マイ避難ルート・マイタイムライン』(p13)では、ご自宅や地域の災害リスクの確認に加え、自分に合った避難方法や避難先までの安全な避難ルートを作成することができます。
- 避難において重要なことの一つに情報収集があります。自分やご家族が安全に避難をするためにも地域で起こっている情報を得るために、『電話連絡網訓練』(p22)などを町会で実施しておくこともおすすめです。

Q 普段、自宅では何を備蓄しておけば良いのか

A 食料や水だけでなく、避難生活を送る上で必要になってくる物品は意外と多くあります。

- 『マイ避難ルート・マイタイムライン』(p13)の裏面には、避難するにあたり準備しておくもののチェックリストが記載しています。リストを基準とし、それぞれのご家庭で必要な物資を追記、確認しておきましょう。
- また、見落としがちなのがトイレに関する備蓄です。被災地の避難所では衛生環境などからトイレ問題は深刻化しています。『防災グッズの共同購入』(p7)を実施して地域全体に備蓄や自助を促すのも効果的です。

5-3 取組参考資料

● 事例2 防災倉庫棚卸

町会 防災倉庫チェックリスト

☆点検ポイント☆

【資 器 材】

- ・正常に動作・通電する
- ・破損やサビはない
- ・中身の劣化はない

【生活用品】

- ・包装の汚れはない
- ・カビや汚れはない
- ・正常に動作する

【食料】

- ・消費期限が残っている
- ・カビや異臭はない
- ・数が十分にある

点検日：20 / / 点検者：

次回点検予定日： / /

No	資器材名	数量	購入日	点検メモ・気づいた点	使用可否 (Ox)
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

メモ欄

- ・今後の補充用品：
- ・その他気になること：



● 事例3 防災グッズの共同購入

共同購入の実施決定と各家庭の備蓄に関して意識啓発を行うチラシ (例)

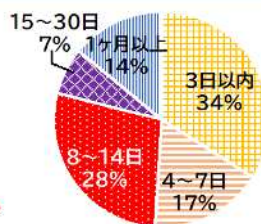
令和●年●月 ●●●町会 防災まちづくり

防災用品の共同購入のご案内

トイレの備えはできていますか？

○災害時には、排水管の損傷や断水が発生し、トイレが使えないことがあります。過去には、**トイレが再び使えるようになるまでに2週間かかった**こともありました。

○避難所などに仮設トイレが設置されますが、**災害が起きてすぐには十分な量が設置されません**。また、設置されても普段使うような衛生環境は保たれていません。被災を体験された方からは、「**臭いがきつくて使えなかった**」「**防犯面が心配**」といった声がありました。



仮設トイレを配備するのにかかる日数
調査：名古屋大学エコトピア化学研究所
協力：日本トイレ研究所 より



熊本地震（2016年）の避難所のトイレの様子

災害時に必要となる凝固剤の数を計算してみましょう！

家族の人数 人 × 平均的な1日あたりトイレの回数 **5** 回 × 日数 **14~** 日 = 必要なセット数 回分

※最低でも2週間分（14日分）を確保することをお勧めします

購入予定の防災用品について

①住宅用強化液消火器



女性や高齢者でも簡単かつ安全に使える、小型・軽量タイプです

粉末タイプに比べ使用後の跡片付けも簡単
使用中も途中で噴射を止められます

標準価格 ¥●,●●●●(税込)
予定販売価格 **¥●,●●●●(税込)**

②災害用簡易トイレ（100回分）

※共同購入では100回分の購入を考えていますが、20回分のもも販売されています



1個あたりの価格が68円でお買い得です

10回分ずつ個包装なのでご家族で分けられます

標準価格 ¥●,●●●●(税込)
予定販売価格 **¥●,●●●●(税込)**

共同購入すると通常価格よりも安価となります！

※注文が少量になった場合、今回の共同購入は中止とする可能性がございます。予めご了承ください。

サンプル展示について

●●●会館では購入予定の防災用品のサンプルを展示しております。ご購入の参考に、ぜひご覧ください！

申込用紙 (例)

令和●年●月 ●●●町会 防災まちづくり

防災用品共同購入 申込用紙

●●町会では防災用品の共同購入を行います。購入を希望される方は用紙下の申込用紙を切り取ってご記入いただき、下記の提出先へお申し込みください。

注文が少量になった場合、中止とする可能性がございます。ご了承ください。

【購入予定の防災用品について】

- 住宅用強化液消火器 (, 円 ⇒ , 円 (税込・予定))
※今回の共同購入では、ご家庭の古い消火器の回収も行います。回収を希望される方は、商品のお渡しの際に一緒にお持ちください。なお、**回収には別途費用(1本につき 円)**がかかり、日本製でないものやスプレータイプは対応不可です。ご了承ください。
- 災害用簡易トイレ 20回分 (, 円⇒ , 円 (税込・予定))
 100回分 (, 円⇒ , 円 (税込・予定))

【申込方法】

- ①購入希望個数を記入のうえ、用紙を**下記の提出先までご提出**ください。不在の際は、郵便受けへ申込用紙を投函してください。会館までのご提出が難しい方はご相談ください。
- ②右のQRコードよりGoogleフォームから申込みください。

【提出先/問合せ先】

●●●会館 〒000-0000 ●●●●●●
 TEL: 000-0000

※毎週水、日、祭日に加え、8月10日～17日は閉館しております。ご了承ください。
会館に今回購入する商品を展示しております。購入の参考にご覧ください。
会館でも申込用紙をご用意しております。

【申込期間】

○月○日
 までにご提出
 ください

スマホ・PCをお持ちの方は
Googleフォームからもお申込みいただけます！



【商品のお渡し】

○商品のお渡しは●●●会館で行う予定です。日時については決まり次第改めてお知らせします。

【代金の支払い】

○代金は商品のお渡しの際にお支払いいただきます。おつりが無いように事前に用意いただき、お渡しの当日にご持参ください。

申込用紙個人用控え

	購入希望個数	1個あたりの価格	小計	合計
①住宅用強化液消火器	個	円	円	円
②消火器回収費用	個	円	円	
③災害用簡易トイレ	20回分	円	円	
	100回分	円	円	

※消火器の回収は日本製でないものやスプレータイプは対応不可能です。予めご了承ください。
 きりとり


申 込 用 紙

	購入希望個数	1個あたりの価格	小計	合計
①住宅用強化液消火器	個	円	円	円
②消火器回収費用	個	円	円	
③災害用簡易トイレ	20回分	円	円	
	100回分	円	円	

※消火器の回収は日本製でないものやスプレータイプは対応不可能です。予めご了承ください。

氏名： _____ 住所： _____ 電話番号： _____

● 事例4 防災アンケート

<h3>町内会</h3>	<h3>地域防災活動のための アンケート調査のお願い</h3>
<p>●町内会では、地域の防災力向上を図るため今年度から川崎市と協力しながら様々な防災まちづくりの取組を実施することとしております。 取組をより良いものにしていくため、皆様のご意見や状況を把握したいと思っておりますので、お手数ですがアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">●町内会 会長 ●●●●</p>	
<h4>アンケートの取扱い</h4> <p>アンケート調査票は、●町内会に加入されている方を対象に配布させていただきます。 気兼ねなくぜひ率直なご意見をお聞かせください。 調査の集計結果等は、今後進めていく防災活動の取組に活用させていただきます。また、アンケート結果の概要等は回覧板や町内会で実施予定のイベントなどでお知らせする予定です。</p>	
<h4>アンケートの回答方法</h4> <p>以下の2つからいずれかの方法をお選びいただきご回答ください。</p> <p>① 用紙…アンケート用紙に直接記入し、代議員の家のポストに投函</p> <p>② Web…スマートフォン等で右のQRコードを読み込んでWeb上で回答する</p> <p>※回答はどちらか一方をお願いいたします</p>	
	
<h4>回答期限</h4> <p>●月●日までに代議員の家のポストへ投函、又はWeb回答をお願いいたします。</p>	
<h4>問い合わせ先</h4> <p>アンケートの回答方法等について……………</p> <p>●町内会の活動等について……………●町内会 会長 ●●●●</p>	

<h3>町内会 地域防災活動のためのアンケート 調査票</h3>	
<p>該当する選択肢の番号に○をつけてください。その他を選ばれた場合は()内をご記入ください。 (複数回答可)と記載されている設問は、あてはまる選択肢の番号すべてに○をつけてください。</p>	
<h4>I. あなたご自身や家族のこと等についてお答えください</h4>	
問1	<p>あなたのご年齢を教えてください。</p> <p>① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上</p>
問2	<p>あなたのご家族の構成を教えてください。</p> <p>① 夫婦のみ ② 夫婦と子ども ③ 夫婦と親 ④ 祖父母と親と子 ⑤ 単身 ⑥ その他()</p>
問3	<p>お住まいの住戸の形態を教えてください。</p> <p>① マンション・共同住宅(自己所有) ② マンション・共同住宅(賃貸) ③ 戸建(自己所有) ④ 戸建(借家) ⑤ その他()</p>
問4	<p>あなたは●●に住んでおおよそ何年になりますか。</p> <p>① 3年以内 ② 4~9年 ③ 10年~19年 ④ 20年~29年 ⑤ 30年以上</p>
問5	<p>同居しているご家族(自身を含む)の中で、避難するときに支援(手伝い)が必要になる可能性のある方はいますか。(複数回答可)</p> <p>① 足腰が弱い方 ② 車いすの方 ③ 寝たきりの方 ④ 病気療養中の方 ⑤ 乳幼児 ⑥ それ以外で介助/介護が必要な方 ⑦ 特になし</p>
<h4>II. 災害に対する備え等についてお答えください</h4>	
問6	<p>●●地区は大地震が起きると大規模な火災延焼の恐れがあることを知っていますか。</p> <p>① はい ② いいえ</p>
問7	<p>●●地区のハザードマップや防災マップを確認していますか。</p> <p>① はい ② いいえ ③ マップは確認していないが水害リスクは知っている</p>
問8	<p>大きな災害が起きてあなたや家族が助けを必要としたとき、近所に頼れる人はいますか。</p> <p>① はい ② いいえ</p>
問9	<p>災害への対策として自宅に設置/備蓄等しているものはありますか。(複数回答可)</p> <p>① 3日分以上の非常食 ② 非常用飲料水 ③ 非常用燃焼トイレ(排泄物凝固剤) ④ 消火器 ⑤ 感震ブレーカー ⑥ 家具の転倒防止対策(固定器具等) ⑦ 浸水防止用土のう袋 ⑧ 防災防犯ガラス ⑨ 窓ガラス飛散防止フィルムの貼付 ⑩ ソーラー充電器 ⑪ 特になし ⑫ その他()</p>

問10	<p>あなたやご家族は、災害時に自前以外の場所へ避難しなければならぬ事態に備えてあらかじめ対策していることはありますか。(複数回答可)</p> <p>① 避難場所の位置を確認している ② 避難場所までの経路も確認している ③ 避難訓練へ参加している ④ 避難計画(マイタイムライン等)を作っている ⑤ 避難用品セットを準備している ⑥ 親族の家などをお願いしている ⑦ 災害用伝言ダイヤル171又は伝言板サービスWEB171の存在を家族と共有している ⑧ 特に何もしていない ⑨ その他()</p>
問11	<p>災害時に身の回りで気になること・不安なことはありますか。(複数回答可)</p> <p>① 自宅の耐震性 ② 家具の転倒 ③ ブロック塀 ④ 狭い路地や行き止まり ⑤ 老朽化した建物 ⑥ 情報入手方法 ⑦ ペットの避難 ⑧ 洪水時の避難場所 ⑨ 特になし ⑩ その他()</p>
問12	<p>大きな災害が起こった場合、あなたが協力できそうなことはありますか。(複数回答可)</p> <p>① 近所の人の安否確認 ② 近所の人の避難支援 ③ 避難所での手伝い ④ 泥・がれき等の清掃 ⑤ 協力は難しい ⑥ その他()</p>
問13	<p>令和元年台風19号の時、避難所へ避難しましたか。 避難した方は、避難や避難所へ行ったこと、気づいたことなどをお書きください。</p> <p>① 避難した ② 避難しなかった ③ その時は昭和に住んでいなかった 避難及び避難所へ行ったこと、気づいたこと等(自由記述)</p>
<h4>III. 地域や町内会の活動等について教えてください</h4>	
問14(a)	<p>あなた又はご家族は普段●●町内会の活動へ参加していますか。</p> <p>① よく参加している(→問14(b)もお答えください) ② 時々参加している(→問14(b)もお答えください) ③ あまり参加できていない(→問14(b)と(c)もお答えください) ④ ほぼ参加していない(→問14(c)もお答えください)</p>
問14(b)	<p>問14で①②③を選んだ方にお聞きします。 参加している町内会の活動を教えてください。(複数回答可)</p> <p>① 夏祭り ② 運動会 ③ 各種スポーツ ④ 子ども会(お子さんが) ⑤ 敬老会 ⑥ 清掃 ⑦ 防災訓練 ⑧ 毎月の会合等 ⑨ その他()</p>

次のページにも設問がありますのでご回答をお願いします

問14(c)	<p>問14で③④を選んだ方にお聞きします。 参加できない(しにくい)理由を教えてください。(複数回答可)</p> <p>① 仕事等で忙しい ② 興味のある活動があまり無い ③ 開催情報が入らない ④ 休演曲で参加が難しい ⑤ 人付き合いが苦手 ⑥ 一緒に行く人がいない ⑦ 役が回って来ると困る ⑧ その他()</p>
問15	<p>町内会の情報はどこから入手していますか。(複数回答可)</p> <p>① 回覧板 ② 町内の掲示板 ③ 家族 ④ 知人 ⑤ 昭和町内会ホームページ ⑥ 昭和町内会LINE ⑦ その他() ⑧ 入手していない</p>
問16	<p>8月の回覧板に入っていた防災まちづくりのチラシをご覧になりましたか。</p> <p>① 中身を読んだ ② 見出し等を経く読んだ ③ 見かけたが読まなかった ④ チラシが入っていたことに気づかなかった ⑤ 回覧板自体を見ていない</p>
問17	<p>これまでに他の地区で実施された防災まちづくりの取組において、以下のような住民参加型のものがありますが、興味があるものはありますか。(複数回答可)</p> <p>① 防災用品の共同購入 ② 防災まち歩き ③ 防災風見交換会 ④ 防災クッキング教室 ⑤ 防災資器材の使用体験会 ⑥ 1人1人の避難ルート・避難計画作成講座 ⑦ その他の防災勉強会(地域の災害リスク、対策方法など) ⑧ その他() ⑨ 特になし</p>
<p>その他、防災に関して町内会へのご意見、ご要望等あればご自由にお書きください。</p>	
<p>設問は以上です。ご協力ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">●月●日までに代議員の家のポストへ投函、又はWeb回答をお願いいたします。</p>	

● 事例6 防災カルテづくり

小杉陣屋町一丁目町会の防災カルテづくり

1 地域の防災・町会の体制

○自宅の災害対策

- ・アンケートの結果を発表→備蓄状況や自分で行っている対策など
- ・家屋の被害を抑えるための対策について
- ・自宅避難を想定した対策
- ・自宅では備蓄、事前に準備しにくい物・事は

○避難所運営する際の町会内の体制・運営訓練の状況

- ・指定避難所(中原中)での役割分担はできているか
- ・他町会との役割分担について
- ・ボランティアの受け入れは考えられているか

○その他 ()

(テーマ・キーワード)

- ・火災延焼・多摩川河川敷・多摩川洪水・内水氾濫・
- ・地域の高低差・避難所(自分の避難先)・家屋倒壊氾濫区域

2 地域の備え

○町会の備蓄状況と今後備えたいもの

- ・災害時に役立つ道具はあるのか(避難所内の倉庫でも可)
- ・町会にはどれほど防災資機材やグッズなどを貯蓄しているのか
- ・道具を使える人はいるのか
- ・町会として今後備えておきたい物

○防災倉庫と避難所の連携・拠点になりうる場所

- ・防災倉庫の設置状況について全体共有する(既設倉庫の備品の確認)
- ・今後必要と思われる備品、機材は何か
- ・防災倉庫・備蓄品・機材の点検・維持管理や役割分担を考える
- ・避難所以外に災害時役立つ施設、その周知など
- ・どの様に活用していきたいか

○その他 ()

(テーマ・キーワード)

- ・備蓄物資・災害時の地域拠点・避難所運営訓練
- ・公園での防災訓練・消火器や凝固剤などの共同購入
- ・ハザードマップの確認・消火ホースキット・緊急連絡先

3 災害に合わせた避難場所・経路・方法

○令和元年台風19号のとき、東日本大震災のとき自分はどの様に行動していたか

- ・災害別の避難先、アンケート結果の共有と各々の回答について
- ・どのタイミングで避難した方が良いのか、災害情報の取得について

○次に同じ災害があったら、どう行動すれば良いと思いますか？

- ・1で聞いた自宅の災害対策を参考に事前にできることはあるか
- ・自宅避難の場合に必要なことは？
- ・大災害時の避難場所と避難経路を考える
- ・避難が混乱しないためにはどの様な対策が必要か

○その他 ()

- ・アンケートで、町会にやってほしいこと、地域の方ができていることを参照しておくこと

(テーマ・キーワード)

- ・避難所の様子・地域住民からの電話や連絡
- ・当時の役員の行動・町内会館の利用・要援護者支援
- ・泥掃き作業や清掃・漂流物の回収・公園の清掃

4 地域活動の状況

○町会以外に地域で活動している団体や集まり得意なこと、スキルを持った人など

- ・協力、連携できることはあるか
- ・キャンプなどアウトドアでの活動や宿泊の経験はあるか
- ・SNSなどインターネットサービスを使うための知識を持つ方

○普段の地域情報発信の手段、災害時の伝達手段

- ・災害時の緊急連絡網やその訓練の状況について
- ・どんな情報伝達が望ましいか、実現可能か(災害時と普段)
- ・防災情報等の伝達や緊急時の連絡網で問題点は何か
- ・その改善策を考える

○その他 ()

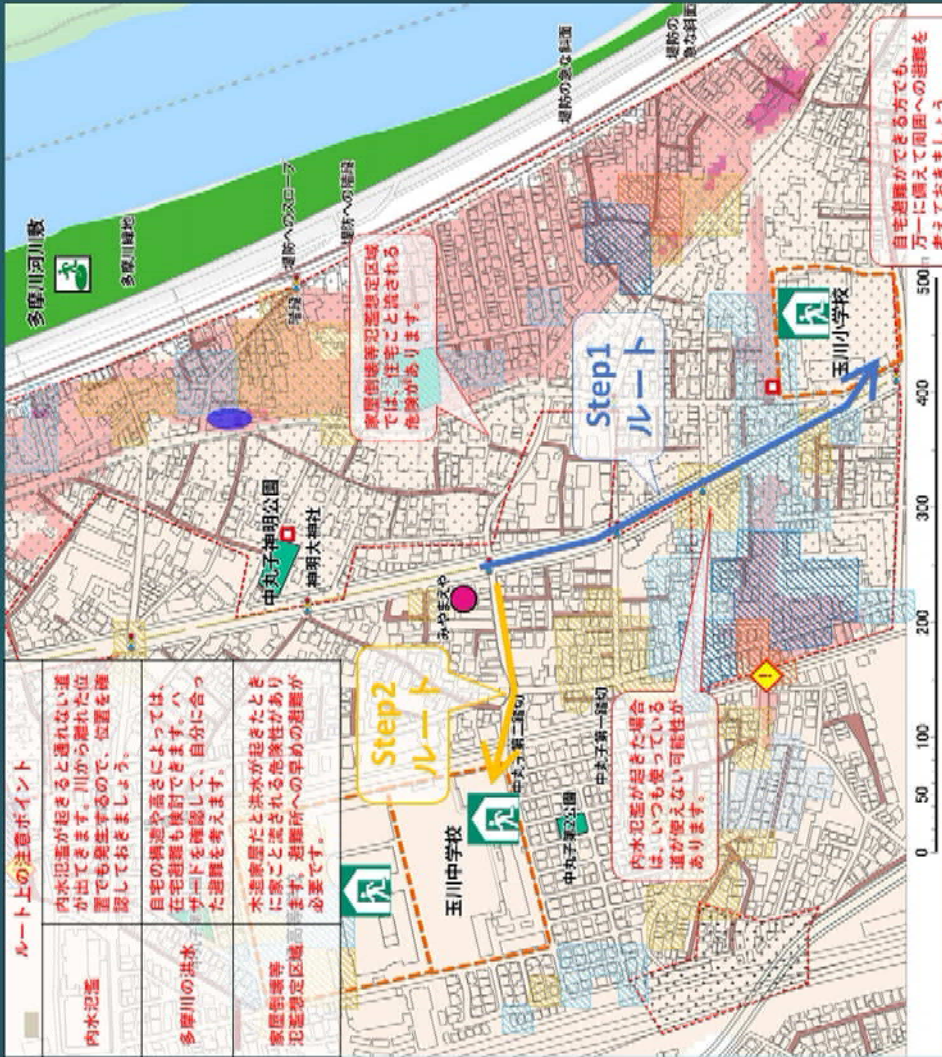
(テーマ・キーワード)

- ・小学校の行事・PTA・青年部・老人会・民生児童委員・スポーツクラブ・青少年指導員・公園の清掃・地域住民からの電話や連絡・公園管理団体・地域の見回り など

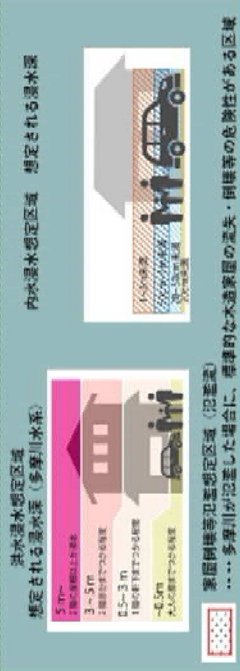
● 事例8 マイ避難ルート・マイタイムライン

〇〇町内会 マイ避難ルート (風水害) 【記載例】

令和4年〇〇町内会の防災まちづくり
氏名：川崎 中丸子 作成日：4.3.10



- 凡例**
- 避難場所 (避難所)
 - 広域避難場所 (公園)
 - 幅員4m未満道路
 - 浸水想定区域 (多摩川水系)
 - 想定される浸水深 (多摩川水系)
 - 5m
 - 3~5m
 - 1.5~3m
 - ~0.5m
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫域)
 - ……多摩川が氾濫した場合に、標準的な木造家屋の流失・倒壊等の危険性がある区域



- 1 マップから自宅周辺の災害リスクを確認しましょう**
- 自家周辺の浸水深さ
洪水 (多摩川) 0.5~3 m 内水氾濫 (多摩川) 0 m
- 浸水継続時間 (2.4 時間) ハザードマップで確認
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
 - 土砂災害警戒区域
 - 土砂災害特別警戒区域
 - 急傾斜地崩壊警戒区域
- 自宅の状況
(2 階建て/あなたの部屋 2 階)
築 20 年/木・RC・S (津速)
浸水深さより自宅の居室の方が
洪水の場合 (高い/低い) /内水の場合 (高い/低い)
- 共通
浸水リスク
土砂災害リスク

2 情報収集

川崎市防災ポータルサイト (川崎市HP)
市内の大雨に関する緊急情報を
把握確認・避難準備などを進めます

2川の様子に関するリアルタイム情報
二次災害・津波・山崩れ・川内
の状況や土砂・氾濫などの
情報を得ることができます

3 避難のポイント

避難場所に行くことが避難ではありません。
避難場所に行くことは避難ではありません。
避難場所に行くことは避難ではありません。
避難場所に行くことは避難ではありません。

6 避難ルート書きましょう

自宅から避難場所までのルートを地図に書き込みます。平時に使う道や、災害の種類に応じた安全なルートを考えてみましょう。

Step1	Step2	Step3
避難場所 玉川小学校	避難場所 玉川中学校	避難場所 自家周辺のマンション
所要時間 15 分	所要時間 10 分	所要時間 10 分

自宅避難ができる方でも、
万一に備えて周囲への避難を
考えておきましょう。

〇〇町内会 マイ・タイムライン (風水害) 【記載例】

令和4年〇〇町内会の防災まちづくり
氏名：川崎 中丸子 作成日：4.3.10

3 家族・気にかける人の状況

名前	電話番号	日中の居場所	必需品・備考
(例) 川崎太郎	〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	〇〇老人ホーム	相欠、足が悪いため早めの避難、〇〇の薬を持参する
川崎花子	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	自宅	持病の薬を持参する
川崎智子	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	都内職場	職場連絡先：
川崎太郎	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	自宅	足が悪いため早めの避難
ペット		自宅	
〇〇さん	〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇	自宅	足が悪いため早めの避難、〇〇の薬を持参する必要がある

避難を考えたときのポイント
災害時に家族が一人一人に応じた避難をサポートすることは不可能です。災害時に自分の命を守るのは、行政でも誰かでもなく自分の手筋です。

スマホの電源が切れても、連絡先がわかるようにしておきます。

火事発生しそうなときや避難場所では、どの避難所でも逃げ込めます。避難所の区域は、避難生活のためのものです。命が助かるために、逃げやすい避難場所を選びましょう。

4 避難行動別フローチャート



5 防災グッズ

避難所に行く際は各自必要なものを持参しましょう！

忘れずに用意

食料	飲料水	事前に準備
防寒・衛生	✓ 活用している軍用寝具	✓ 防寒寝具
貴重品	✓ 現金	✓ 現金
安全対策	✓ 避難経路	✓ 避難経路
衣類	✓ 防寒着・下着・靴下	✓ 防寒着・下着・靴下
道具類	✓ 懐中電灯	✓ 懐中電灯
生活用品	✓ ケットティッシュ	✓ ケットティッシュ
その他	✓ ペット用ケージ	✓ ペット用ケージ

記載例は令和元年台風19号の日付です。

7 マイタイムライン

10月7日 ~ 10月10日 (5~2日前) (1日前) 10月11日 (12時間前) 10月12日 (台風上陸予定日)

台風シーズン前や近づいてきたときに作ると効果的です。

台風が強くなるまでに準備を済ませておく時期

状況に応じて避難行動を開始する時期

身の安全を確保する時期

避難安全確保

レベル	準備	レベル1	レベル2 注意呼びかけ	レベル3 高齢者等避難	レベル4 避難指示	レベル5 避難安全確保
自分・家族 行動	<p>マイタイムライン・マイ避難ルートを作る。</p> <p>非常用持ち出し品を準備する</p> <p>家族で災害時の連絡方法を確認する</p> <p>別紙の記載例を見ながら自分に必要な項目を書き足します。</p> <p>天気予報の確認</p> <p>ペットホテル等の一時預け先の手配</p> <p>ペット用のケージを用意</p> <p>水・保存食の買い出し</p>	<p>テレビやWEBで天気予報をチェック</p> <p>家族の今後の予定や居場所を確認する</p> <p>外にある物はそれぞれならぬをしまう</p> <p>避難経路を確認</p> <p>家具や家電を高い場所に移動する</p> <p>非常用持ち出し品の確認</p> <p>水・保存食の買い出し</p>	<p>避難する場所、経路を確認</p> <p>避難の準備 (持出物の準備など)</p> <p>避難所の開設状況を確認する</p> <p>隣の〇〇さんに声をかける</p> <p>携帯電話を充電しておく</p> <p>貴重品を上層階に置く</p> <p>要援護者に事前の避難を呼びかける</p>	<p>避難に時間かかる方は避難駅へ</p> <p>高層階に避難する</p> <p>隣の〇〇さんに声をかける</p> <p>戸締り、ガスの元栓、ブレーカーを落とす</p>	<p>自宅を危険な場合は避難所へ</p> <p>非常用持ち出し品を確認</p> <p>避難所での最新の避難指示を確認</p> <p>自宅の安全な高い位置に留まる</p>	<p>命の危険直ちに安全を確保！</p> <p>避難レベル4までに必ず避難する</p>
地域	<p>町内会の集まりなどで対応を確認する</p> <p>防災用品を確認する</p>	<p>避難所の開設準備を確認する</p> <p>緊急連絡体制を確認する</p>	<p>避難所の開設準備を確認する</p> <p>緊急連絡体制を確認する</p>	<p>避難所の開設準備を確認する</p> <p>緊急連絡体制を確認する</p>	<p>避難所の開設準備を確認する</p> <p>緊急連絡体制を確認する</p>	<p>避難所の開設準備を確認する</p> <p>緊急連絡体制を確認する</p>
避難先	<p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p>	<p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p>	<p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p>	<p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p>	<p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p>	<p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p> <p>避難先が浸水または土砂の災害が先となる危険性がある</p>

このシートは川崎市の防災まちづくり推進事業（川崎市まちづくり推進課）の場で、地元の防災士等を通じて作成されたものです。（画像）

話すことの例

※必ず全て聞く必要はありません。話のネタやきっかけとして、参考にして下さい。

■お伝えすること

- ・災害時に支援を行うのは町内会や近所の人になります。
- ・支援を行う人も被災者になりますから、必ず支援に伺うことはできないかもしれません。
- ・町内会では様々な活動（サロンなど）をしています。知り合いを作るきっかけにもなりますので、（ご家族と一緒に）参加してみたいかがでしょうか。
- ・今後も、こうした訪問を行ってもいいですか。

■お聞きすること

- ・地震や台風が起こったときには、どこへ避難されますか。
- ・令和元年の台風のとてどうされましたか。
- ・いま、災害が起こったときに心配していることはありますか。
- ・災害に備えて準備していることはありますか。
- ・近所に知り合いはいますか。
- ・最近の身体の具合はいかがですか。
- ・ご家族は一緒にお住まいですか。
- ・近くに親族はお住まいですか。
- ・台風が近づいたとき、事前に親族の家に避難できますか？
- ・町内会の活動で参加できそうなものはありますか。

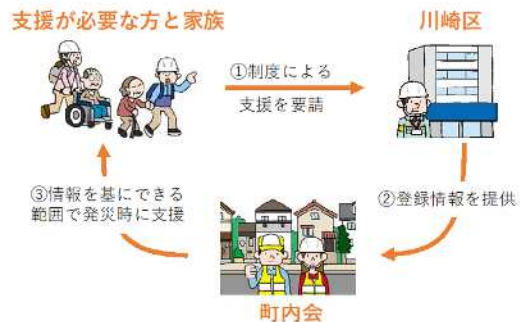
災害時要援護者避難支援制度に登録された皆様へ

町内会では、災害が起きた時に避難が難しい方への支援を進めます

高齢や肢体が不自由など、災害時に避難が難しい方は地域に相当数いらっしゃいます。町内会では、住民の方の安全な避難に向けて、川崎市の要援護者支援制度に登録された方を対象にご訪問し、ご自身の状況や、支援についてお話をさせて頂きたいと思っています。

災害時要援護者避難支援制度について

避難支援を必要とする方が、川崎市に申し込みをすると、市から町内会へ登録情報が提供されます。町内会を中心に、住人同士の助け合いによって、安全な避難を実現していくものです。



制度に登録されている方へ／ご訪問を予定しています

町内会では災害被害を減らすために様々な防災活動をしています。活動には限りがありますので、要援護者の方やご家族とお互いの状況を話し合いながら、命が助かる避難と一緒に考えていきたいと思っています。



お問い合わせ先
町内会

災害時要援護者支援制度に 登録された方へ

町内会

本日はお時間頂きありがとうございました。

町内会では、いざ災害が起きた時に、一人でも多くの方が安全に避難し、無事に災害を乗り切れるよう、避難支援の活動を進めております。今後は本日のお話をもとに、支援の方法や、地域での助け合いの体制作り等を考えてまいります。またお伺いすることもあると思いますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

ご近所同士のつながりが、生活と防災の両方に大事です

実際に災害にあった被災地では、まず顔見知りから助けに行ったそうです。いつの時代でも、いざというときに頼れるのは、人と人とのつながりになります。町内会では、皆様の毎日が少し充実する楽しい活動も行ってまいりますので、ご家族も含めてお気軽にご参加ください。



お問い合わせ先
町内会

● 事例1 3防災×交流イベント



ぶくろ ゴミ袋で つく ポンチョを作ろう!



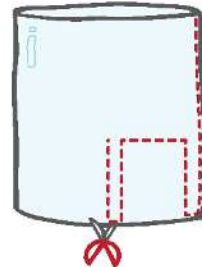
さいがいじ きゅうあめ ふ すな ま ぶくろ
災害時だけでなく、急に雨が降ってきたときや砂ぼこりが舞っているときなど、ゴミ袋で
かんたん つく さむ き さむ たいさく
簡単にポンチョが作れます！また、寒いときに着ると寒さ対策にもなります！



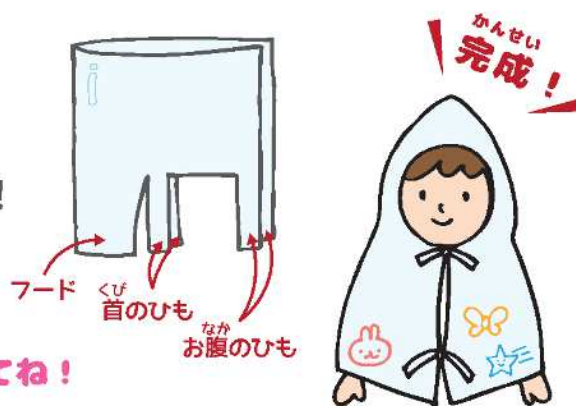
ぶくろ くち
ゴミ袋の口を
うえ お
上にして置こう！



あか てんせん ぶぶん
赤い点線の部分を
き と
ハサミで切り取ろう！



あたま
頭からかぶって
む
ひもを結べば
かんせい
ポンチョの完成！



ぶくろ え えが
ゴミ袋に絵を描いて
じぶん つく
自分だけのポンチョを作ってね！

みんなで
つく
作ろう!

カラフル ぼうさい 防災ランタン

さいがいじ 災害時だけでなく、アウトドアにも！シールやマスキングテープで自由にアレンジ！
すてき 素敵なランタンをつく
ぼうさい 防災ランタン

1 から
空のペットボトルに
シールやテープを自由に
は
貼ってみよう！



2 リボンをビニール
も
テープでつけて持ち手を
つく
作ろう！



3 ペットボトルに水を
い
入れて、ケミカルライトを
い
入れよう！



4 キャップをしめれば
ぼうさい
カラフル防災ランタンの
できあがりだよ！



くら ところ
暗い所で
見よう！



5-4 町会別取組一覧(R5 年度末時点)

区	町会	支援年数		
		1年目	2年目	3年目
川崎	大師第一地区社協 【川中島、大師駅前、 大師中町、伊勢町、 藤崎】	・防災講座 ・防災まち歩き	・防災意見交換会 ・防災意見交換会 ・各町会での取組 ・各町会での取組	・防災意見交換会 ・各町会での取組 ・防災意見交換会
	観音	・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災カルテづくり	・要援護者支援 ・防災看板設置	・要援護者支援 ・マイ避難ルート・マイタイムライン ・防災訓練 ・安否確認訓練
	昭和	・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災カルテづくり	支援中	支援中
幸	小向	・防災講座 ・防災まち歩き ・防災カルテづくり	・防災意見交換会 ・防災まち歩き ・防災意見交換会	・防災アンケート ・防災講座 ・民間との防災協定締結
	塚越地区 【第1～第4町会】	・防災講座 ・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災カルテづくり	・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災倉庫棚卸 ・マンション防災検討	・防災倉庫設置 ・防災意見交換会 ・防災訓練
	小倉中	・防災×交流イベント	・防災アンケート ・マイ避難ルート・マイタイムライン ・防災×交流イベント	支援中
	古市場2丁目	・防災アンケート ・防災まち歩き	・防災カルテづくり ・マイ避難ルート・マイタイムライン	支援中
中原	荻宿	・防災講座 ・防災まち歩き	・防災意見交換会 ・防災意見交換会	・防災意見交換会 ・電話連絡網訓練
	市ノ坪本	・防災カルテづくり ・防災アンケート	・防災倉庫棚卸 ・防災意見交換会 ・防災意見交換会	・防災まち歩き ・マイ避難ルート・マイタイムライン ・安否確認訓練
	中丸子中・南	・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災カルテづくり	・令和元年台風19号振り返り会議 ・避難所運営方法検討	・避難所運営方法検討
	木月3丁目	・防災カルテづくり ・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災倉庫棚卸	・防災グッズの共同購入 ・防災ポリ袋クッキング ・防災意見交換会	・SNS勉強会 ・防災ポリ袋クッキング ・安否確認訓練 ・防災ポリ袋クッキング
	上平間第一	・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災カルテづくり	支援中	支援中
	小杉陣屋町一丁目	・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災カルテづくり	支援中	支援中

区	町会	支援年数		
		1年目	2年目	3年目
高津	二子第二	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座 ・防災意見交換会 ・防災まち歩き ・防災カルテづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意見交換会 ・防災まち歩き ・防災意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災アンケート ・防災意見交換会 ・防災意見交換会
	諏訪第二	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座 ・防災まち歩き ・防災意見交換会 ・防災アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫棚卸 ・消火ホースキット設置訓練 ・要援護者支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズの共同購入 ・安否確認訓練
	二子第三	<ul style="list-style-type: none"> ・防災カルテづくり ・防災アンケート ・防災まち歩き 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫設置 ・防災講座 ・防災アンケート ・防災講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座 ・防災講座 ・防災アンケート ・防災講座
	諏訪第一	<ul style="list-style-type: none"> ・防災アンケート ・防災まち歩き ・防災カルテづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫棚卸 ・令和元年台風19号振り返り会議 ・防災訓練 	支援中
宮前	馬絹	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座 ・防災まち歩き ・意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意見交換会 ・防災意見交換会 ・防災意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害用井戸の選定 ・一時避難場所の選定 ・防災意見交換会
多摩	かりがね台	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座 ・防災意見交換会 ・防災まち歩き ・防災意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災意見交換会 ・防災まち歩き ・防災意見交換会 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災アンケート ・防災講座 ・防災意見交換会
	大作	<ul style="list-style-type: none"> ・防災カルテづくり ・防災アンケート ・防災まち歩き 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS勉強会 ・マイ避難ルート・マイタイムライン ・防災倉庫棚卸 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイ避難ルート・マイタイムライン ・防災グッズ共同購入 ・ブロック別防災訓練
麻生	高石	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座 ・防災まち歩き ・防災意見交換会 ・防災アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫棚卸 ・マイ避難ルート・マイタイムライン ・防災まち歩き ・SNS勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災まち歩き ・防災意見交換会 ・マイ避難ルート・マイタイムライン ・防災講座



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

防災まちづくり事例集
～わたしたちのまちの防災訓練～
令和6(2024)年3月

■問合せ

川崎市まちづくり局市街地整備部防災まちづくり推進課

Tel:044-200-3012 Fax:044-200-0984